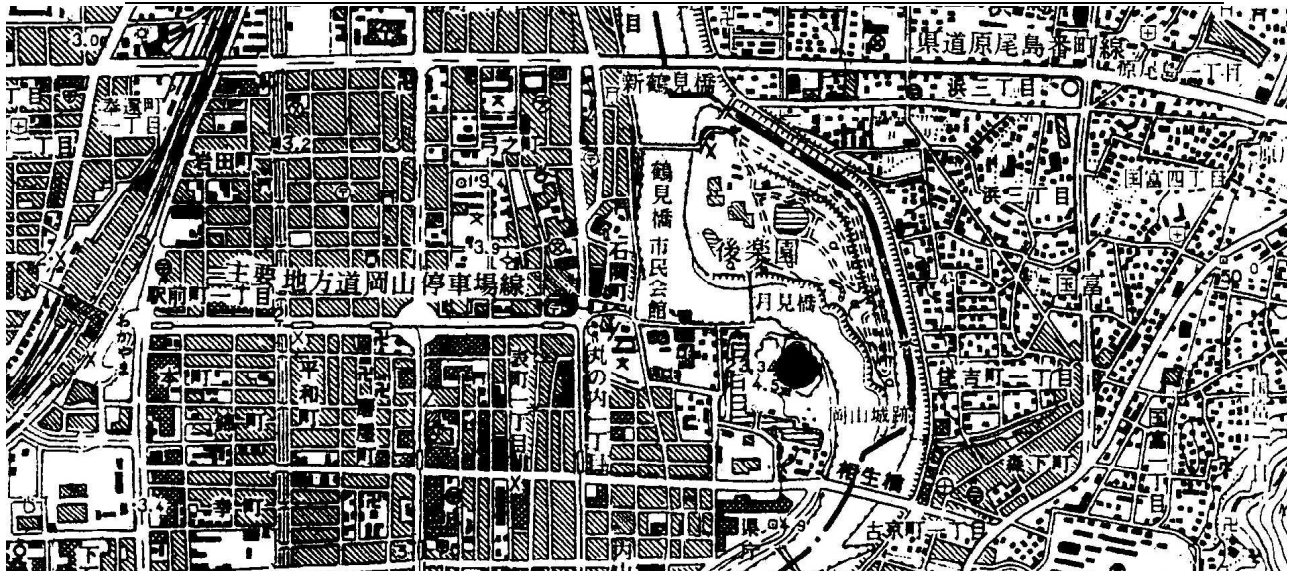


史跡岡山城跡

長谷川 一英

【遺跡の位置】



S=1/25,000

【遺跡の概要】

史跡岡山城跡は岡山市街地の中心部、北区丸の内二丁目に位置しています。57万石余を領する大大名であった宇喜多秀家は、1597（慶長2）年、父、直家が築いた石山城の東約350mにあった岡山に本丸を置き、城を築きました。このため城は『岡山城』、城下町は『岡山』と呼ばれました。岡山城は東端に本丸がある梯郭式平山城です。天守閣は望楼形三層六階建てで、黒漆塗りの下見板を用いた外観から、『烏城』とも呼ばれています。その後、小早川秀秋や池田家二代目の忠雄によって増改築が行われました。

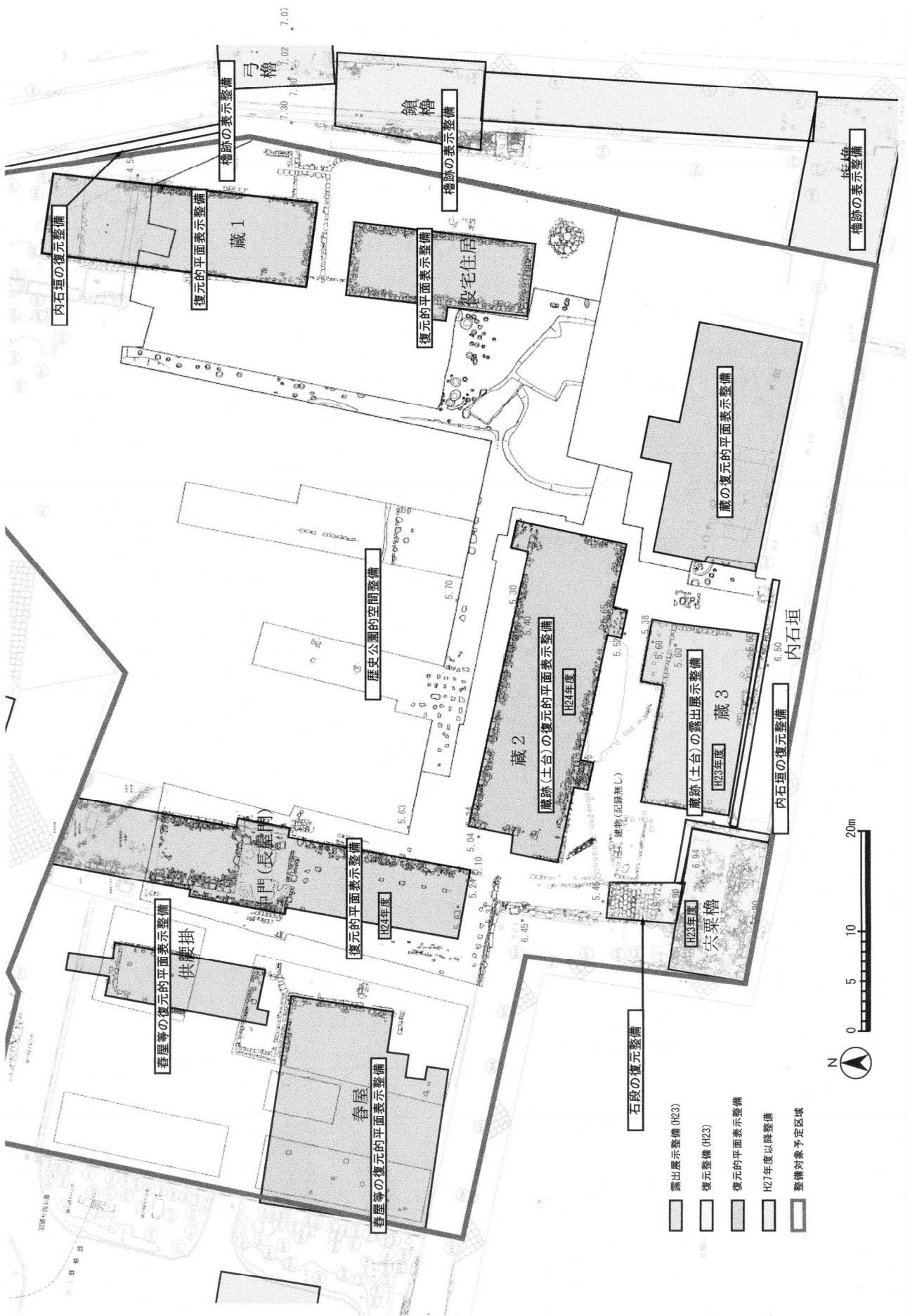
明治時代になると建物は取り壊され、1882（明治15）年頃には、本丸内には天守閣、月見櫓を残すのみでした。1896（明治29）年、旧制中学が本丸内に建てられました。これらの建物も1945（昭和20）年、空襲によって、月見櫓以外は焼失しました。1966（昭和41）年、鉄筋コンクリートながら、天守閣が復元されました。

【文献】

三浦正幸ほか1996年『岡山城』「歴史群像」名城シリーズ12 学習研究社

【交通】

JR 岡山駅前から岡電バス「岡電高屋行き」、両備バス「東山経由西大寺行き」、「県庁前」下車、北へ徒歩10分。



本丸下の段整備概要図